

温故知新

静岡県立中央図書館所蔵の貴重書紹介(48) 平成14年6月1日

幕末・明治初期の経済書(その2)

林正明訳 『経済入門』(K086/9)

林正明^{まさあき}は、弘化4(1847)年に肥後に生まれました。欧米留学後、明治政府に出仕し、司法省や大蔵省に勤めました。明治13(1880)年に交詢社^{こうじゆんしや}(福澤諭吉らが設けた民間社交クラブ)が結成されると常議員となり、翌年の自由党結党においては幹事となりました。明治18(1885)年、39歳の若さで病死しました。

『経済入門』の原本は、イギリスの婦人参政運動家としても知られるフォーセット夫人(Millicent Garret Fawcett 1847~1929)が著した『Political Economy for Beginners』(初版1870年)です。この本は、夫で「ミルの忠実な後継者」といわれたH.フォーセット(Henry Fawcett 1833~1884)の『Manual of Political Economy』(初版1863年)を初学者用にやさしく簡潔に書き改めたものです。夫人の『Political Economy for Beginners』の訳書は明治経済学史上の最大のベストセラーといわれ、1880年代までに、林正明が翻訳した『経済入門』(明治6(1873)年刊)を含め、2つの全訳、1つの部分訳が出版されました。特に、永田健助^{けんすけ}が翻訳した『宝氏経済学』は1877年、1887年、1888年と3版まで出版され、爆発的な人気を博しました。当館所蔵(K086/8)は明治10(1877)年に刊行された初版です。

林正明訳の『経済入門』は、日本に初めてロッチデール公正先駆者組合(Rochdale Society of Equitable Pioneers)を紹介した本として知られています。ロッチデール公正先駆者組合とは、最も有名な協同組合の1つで、1844年、生活向上を図るために協同の購買店舗をイギリスのロッチデール(マンチエスターに隣接する小都市)に設立しました。協同組合運動は、単に良心的店舗を経営するのが目的ではなく、産業革命以降の競争原理に基づく資本主義社会の矛盾や労使対立を協同の原理をもって変革しようとするものです。

『経済入門』は全4巻ですが、巻三の第4章「協同工社、力作者ノ討要、並ニ協同会社、等」のなかで、「ロツセルパイオニールス」の名でロッチデール公正先駆者組合が紹介されています(ロツセル=Rochdaleパイオニールス=Pioneers)。そして、「其販賣必ス現金ヲ以テシ」(掛売りはしない、代金は引渡しと同時に支払う)、「三ヶ月毎ニ會計ヲ為シ一年五朱ヲ其財本ノ股ヲ有ツ者ノ利子ト為シ」(四半期ごとに決算し配当を公表する、出資金に対し5%の利子(1844年創業当時の原則では3.5%)を支払う)、「餘ハ皆其物品ヲ買フ者二分チ其物品ヲ買フ者各々其買フトコロノ金額ニ準シテ之ヲ受ルナリ」(余剰金は購買高に比例して配分する)など、ロッチデール公正先駆者組合創設時規約の原則(1844年)のうち、「目方や品質を正しくする」以外の全てが記されています。

明治12(1879)年、東京に設立された共立商社は、日本最初のロッチデール式消費組合です。1口25円の出資金で、米、薪、木炭、醤油、酒類、灯油類などの生活必需物資を共同購入し、1株につき6ヶ月56銭の出資配当をしました。ロッチデール公正先駆者組合が初めて紹介されてから6年、消費協同組合の仕組みについて、日本でも研究が進んでいたことがうかがえます。

【参考文献】

『新原則時代の協同組合』(335.6/シ)

『協同組合事典』(335.6/105A)